



アガパンサス(あがぱんさす)
花言葉…恋の訪れ、知的な装いなど

開花時期は、6/20～7/末頃。南アフリカ原産。明治時代中期に渡来。梅雨の頃、紫色の小花をたくさん咲かせる。白花の品種もある。葉は君子蘭に似ている。根は太く強いので、斜面や土手などの土の流出を防ぐのに役立つらしい。別名「紫君子蘭」(むらさきくんしらん)

花のお便り

2015.6 No.108

E-mail : info@miyazaki-p.co.jp
http : //www.miyazaki-p.co.jp/

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山5-33-2
TEL. 03-5384-1331・FAX. 03-3305-2528

近頃「ポツダム宣言」が脚光を浴びている。私も言葉としては知っていたが、内容までは「つまびらかには知らない」。てなことを言えるのは一般庶民だけかと思っていた。ところが一国の首相が、党首討論の場で言ってしまった。「戦後レジームから…」を言う前にその根底にある、ポツダム宣言を心に留めなくては。私も一緒に勉強しますから。



◀からびよん



出力サービス、知ってますか？

出力サービスと言っても色々な分野があります。データを作成したが、プリンターがないので出力して欲しい。ポスターを1枚出力、それもA3からB1の大きさまで可能です。同窓会の式次第や横断幕も出力します。データを出力して本の作成を。店頭や事務所に貼り出すお知らせを、出力してPPやパウチ加工を。紙芝居を厚紙に出力を、などお客さまの要望は多岐にわたります。弊社の出力機はオンデマンド印刷に使用する高性能な機械ですから、仕上がりの満足度も充分期待できます。用紙もコピー用紙から、厚紙、特殊紙、塩ビなどまで要望にお答えいたします。店頭メディア持参、メールの送信どのような形態でも承ります。



疑問に答えます。⑩ 1色と4色印刷の料金に差がない

本来であれば4色印刷は1色に比べ、3～4倍の料金になっても不思議はない。事実かれこれ15年ほど前までは1色印刷に比べると、かなり高価な印刷と見られていた。ところが近頃はほとんど差がなくなってきた現実がある。その原因は、印刷機械の性能が上がってきて、職人でなくても操作が可能になったこともある。版を機械に設置することも、インキの調整も自動化され、すべての調整を機械がやってくれる。作業の効率化は人間の働く価値まで低めてしまうようだ。また印刷通販の出現が、印刷料金の低下に拍車をかけ、さらに1色から4色の料金設定を壊滅に追い込んでしまった。エンドユーザーにとってはこのうえない話であるが、印刷業界の発展にとっては、損失と言わなければならない。



◀からびよん

気まぐれエッセイ いぶりがっこが旨い

ポリポリ、カリカリ、もう止まらない。たくあんの、芯までいぶられた香りが鼻をくすぐり、十分に熟成された甘みが、噛めば噛むほど口いっぱいに広がる。今年も秋田県横手市の道の駅「さんない」に寄ってみました。店内のど真ん中にふたつの冷蔵ケースが置かれ、横手市さんない地区を初めとして、近隣の農家の主婦が手作業で作った「いぶりがっこ」がところ狭しと並んでいる。その作成者数およそ30名ほど、それぞれ作成者の地域と名前が印字されている。端から試食をするが、5人目あたりになると、どれも甲乙つけがたく、もうどれが良いのか分からなく、私の舌では選別不可能となる。そこで今回はゴールデンウィークの前にネットで検索、いぶりがっこコンクールで優勝した人を見つけることにした。その名は「高橋篤子さん」その記憶を元に探すと、どれも高橋の姓ばかり。ほぼ80%くらいは同じ姓で、おそらく皆親戚関

係なのだろうか。運よく目指す篤子さんのいぶりがっこを見つけ購入することが出来た。その味は次回ということにしますが、地元で聞いたところによると、いぶりがっこは1月に仕込み3月頃に出来上がるので、5月頃までが最も美味しいようだ。ちなみに、いぶりがこはさんない地区が発祥の地らしい。もうひとつ、8月頃のいぶりがっこは好みもありますが、止めた方がいらしいです。

